



Nour 1: Currently the \$9 billion Nour facilities generate 160 megawatts (MW).
資料：Fabiola Ortiz

モロッコに世界最大の太陽光プラント設置

【マラケシュ IDN=ファビオラ・オルティス】

サハラ砂漠に降り注ぐ太陽光からの熱を電気に変える野心的なモロッコの計画が国際的に注目を集めているが、このことは、11月7日～18日の日程でマラケシュで開催された国連気候変動枠組み条約第22回締約国会議（COP22）でも注目された。

COP22の会場から北東に200キロメートルの場所に、450ヘクタールのノア太陽光発電プラントがある。2018年に完全稼働すると、100万世帯（モロッコの全人口の約3%に相当）に電力を供給し、年間で地球温室効果ガス76万トンの炭素ガス排出抑制効果を生み出すことができるとしている。

モロッコの首都ラバト全体が収まってしまうこの世界最大の太陽光発電プラントは、欧州の都市バルセロナと同じぐらいのサイズだと言われている。アトラス山脈とベルベル人の村々に囲まれた砂漠のオアシス都市ワルザザートは、従来モロッコの砂漠観光の入口として栄えてきた街だが、このプラント建設により、新たに太陽光エネルギー利用の入口としても知られるようになった。



資料：SDGs Goal No. 7

昨年、世界の指導者が温室効果ガスの排出を抑制し地球の温暖化を避けるための合意に達した COP 2 1 がパリで開催された際、モロッコ国王ムハンマド 6 世は、「『リオ地球サミット』（国連環境開発会議）で国際社会が気候変動の問題に対処する緊急の必要性に気づいて以来、我が国は、持続可能な開発と環境保護を先取りする政策が国際社会の世界的な取り組みと軌を一にするように決意をもって取り組んできました。」と語っていた。

モロッコには年間で約 3 0 0 0 時間の太陽光が降り注ぐ。サハラ砂漠は太陽光を利用するには完璧な場所だ。この北アフリカの国には化石燃料の埋蔵がなく、エネルギー資源はほぼ全面的に外国からの輸入に依存してきた。

ノア太陽光発電プラント事業は、2 0 2 0 年までに電力の 4 2 % を再生可能エネルギーから生成するとモロッコの持続可能な開発戦略目標の一部を成している。モロッコ政府は、この目標について、（パリ協定のルール作りを軌道に乗せることに成功した）COP 2 2 に沿うものであり、気候変動対策へのコミットメントを証明する一環と位置付けており、国連もこの目標を称賛している。

モロッコは憲法、立法、規制の各面に関する一連の改革を公にしている。エネルギー源の移行に対しては明らかに高い優先順位が与えられている。

モロッコ政府はまた、今後 1 0 年以内に再生可能エネルギーの割合を増やすために、風力・太陽光・水力発電に 1 3 0 億ドルを投資する計画を発表した。

現在、9 0 億ドルのノア第一号プラントでは 1 6 0 メガワットの電力を生産している。次の 2 つの段階の工期が終了し、ソーラータービンがフル稼働すると、ノア太陽光発電プラントでは 5 0 0 メガワット以上が生産されることになる。ノア 2 号とノア 3 号はそれぞれ、2 0 1 7 年、1 8 年に稼働予定だ。

ドマナタン氏は IDN の取材に対して語った。

他の途上国に与える影響についてパドマナタン氏は、「ヨルダン・南アフリカ・ボツワナ・ナミビアといった国々がすでにノア太陽光発電プラントに関心を示しています。また、ペルーやチリからの視察もあります。」と語った。この南米の2か国にはアタカマ砂漠が広がっており、太陽光を発電に利用する巨大な可能性が秘められている。
(12.01.2016) INPS Japan/ IDN-InDepthNews



資料：Map of Morocco

